

平成 28 年 第 3 回 日本救急医学会 男女共同参画推進特別委員会 議事録

日時：平成 28 年 6 月 30 日（木）10:00～12:00

場所：日本救急医学会事務所

出席：

委員長 畝本 恭子
委 員 阿南 英明
岡田 昌彦
小澤 昌子
木田 真紀
木田 佳子
角 由佳
長谷 敦子
並木 淳
本多 ゆみえ
矢口 有乃

担当理事：田中 裕

欠席：

委 員 木村 昭夫
並木 みずほ

議事 1：現在の委員会活動について（報告事項）

- ① 専攻医募集関連のタスクフォース「救急医を目指す君へ」の HP, FB の開設
（人気は高く、スマートフォン利用が多い。アクセスは都市部にやや偏っている）
当委員会として、
 - i キャリアプラン、ライフプランの記事投稿
 - ii 男女共同参画目線での情報提供：木田真紀先生、木田佳子先生に依頼
⇒委員を中心に情報を集め、木田真紀先生、木田佳子先生が集約してアップする。
 - iii 臨床研修医・医学生のための救急セミナー参加；若手女性救急医（順天堂大学浦安病院の森川美樹先生に依頼。
- ② タスクフォースから上記と別枠で男女参画の HP 利用も提案されているが、当面、この企画が継続すると考えられるので、その中で情報提供、PR する方向。

議事 2：第 44 回総会・学術集会 パネルディスカッション 13 について

① 進捗状況の報告 (畝本)

- (i) 他学会(内科、外科、産科婦人科、小児科、麻酔科)の代表演者との PD として、この 5 学会に問い合わせ、行岡代表理事名で、参加を依頼した。
- (ii) 外科学会以外は、演者確定。(第 44 回事務局から会長名で依頼予定)
- (iii) 司会は、並木淳先生と矢口有乃先生にお願いしている。
- (iv) 冒頭に福井大学の林先生に 20 分の基調講演をお願いしている。これは男性育休に関すること、の予定
- (v) 各学会の演者の発表は 10 分(救急からも一人)残り 40 分で PD の予定。
- (vi) PD なので、必ずしも結論は出せないが、救急医学会に対して何等かの提言をして終えたい。

② 具体的内容についての協議

- (i) 各学会の発表内容に、統一事項を入れていただくのがよい：
 - すでに依頼時に、「男女比、年齢分布、女性評議員枠などの有無、学会としての取り組み—女性比率による施設へのインセンティブ、復職支援、施設長へアプローチ、新専門医制度にあたり男女参画の取り組み」などをお願いしている。
- (ii) 専門医更新が女性には困難—この対策は？
 - 女性が子育て中のキャリアで困ることに対する取り組みを訊いては？
- (iii) 女性医師参画特別委員会から‘男女共同参画推進特別委員会’に変わった意義は、女性を優遇することではなく、女性が働きにくい職場を働きやすくするためには、男女を問わず働きやすい環境を作ること。男性も働き方の考え方を変えることができる仕組み(シフト性、チーム制)をつくる必要がある。
 - この点を論じる演者として、阿南英明先生に救急医学会の演者を依頼：決定。
- (iv) 各演者の仮原稿を事前に送っていただくことをお願いし PD の方向性を決める。救急はシフト性がとりやすく特殊ですね、という身もふたもない結論にならないよう、全科共通の可能な取り組みを探り、救急医学会として遅れている部分も明らかにする。‘男女ともに働くためには男性の理解、変化が不可欠である’

③ 今後の予定

- (i) 外科学会に演者推薦について至急確認
- (ii) 林寛之先生には、PD の内容に合わせ、‘男性が変わらなければ…’というような内容のお願い(畝本)
- (iii) 各科の演者に事前スライド提供と、内容の確認、PD 打ち合わせ(メールで。)(並木淳先生、矢口有乃先生)

議事 3：ラウンジについて

- ① 場所：選定中（事務局のお返事では国際館パミールの中の予定）
- ② 開室時間はパネルディスカッション（2 日目午後の予定）以外の時間
- ③ ラウンジ内の講演：初日に木田（矢野）佳子先生、3 日目に浦添総合病院の那須道高先生。ティータイムのイメージ。
- ④ チラシ作りと、プログラム抄録集への掲載
- ⑤ 託児所の確認：施設内に。（事務局に確認したところ、ラウンジはパミールだが、部屋のサイズの関係で、託児所はグランドプリンス新高輪（敷地内、連絡通路あり）になるとのこと）
- ⑥ ラウンジの当番表作成（発表時間決定後）

議題 4 今後の委員会活動について

- ① タスクフォース 2016 への協力：機構主導の新専門医制度が延期となったため、来年度も引き続き活動は続く見込み
- ② 若手会員・学生へのアプローチ
 - (i) 学生・研修医部会設置運用特別委員会とのコラボレーション：7 月の救急セミナーなど
 - (ii) 当委員会でも若手向きのセミナーなどの企画は可能：学会より開催費用提供：7 月の専攻医研修応募前の参考とするため、2 月ころの開催：総会終了直後から本格的に企画—それまではメールで提案募集。
- ③ 施設長など管理者へのアプローチ
 - (i) 男女共同参画に関するワークショップへの参加をインセンティブ、あるいは、施設更新要件とする。
 - (ii) 指導医セミナーのひとつにさせていただくことも検討（第 44 回総会でも検討中）

議題 5 女性評議員・各種委員について

- ① 男女のより良い働き方について、学会としての意思決定に関わるには、現在圧倒的に少数である女性評議員の増員により、声を伝えることが必要。
- ② 内科学会、麻酔科学会など、女性評議員の枠を作り、また理事への推挙もある。
- ③ 女性の評議員は現在 6 名である。評議員の要件である指導医は、現在 11 名とのこと。この要件を緩和することはできない。
- ④ 各種委員の女性の参加も少ない。内容としても教育・研究などが主で、社会参画、学会運営に関わる委員会にはほとんど加わっていない。学会の方向性において具体的な作業が行われる委員会に、女性が直面するライフイベントなどの情報が乏しいと考えられ、会員全体の損益に関わる可能性がある。

決議：上記②～④について当委員会として学会に働きかけてゆく

議事 6：復職などにむけた教育プログラムについて

- ① 研修プログラム委員会などで e-learning は作成中
- ② 復職に際しては、やや実践的な知識や手技のコンテンツが必要
- ③ 白紙からの作成は時間・労力の点から困難：すでに大学や医療機関で作成しているものを参考にする。
- ④ 会員以外にもアクセスできるようにし、救急医としての復帰も可能にするのがベスト

以上) 文責 畝本恭子

次回委員会は 2016 年 10 月 20 日（木）10 時より 日本救急医学会事務局